日本銀行の技師とはどんな仕事か？

日本銀行には、中央銀行の業務を支えるインフラとしての建物・設備の整備や維持管理を担うエキスパートである、「技師」という職種があります。世の中の皆さんが日本銀行に対して抱くイメージは、金融政策の担い手や、日本銀行券の発行主体、といったものではないでしょうか。ですが、日本銀行が中央銀行としての役割を適切に果たすためには、その建物・設備が適切に整備・維持管理されている必要があります。これはあまりに当然のことではありますが、まさにそれを「当然のこと」として意識せずに済むよう、日本銀行では、技師の仕事を、きわめて重要なものであると位置づけています。

具体的にみてみましょう。日本銀行の本支店には、金融機関や個人の方々が来訪する窓口もありますし、日本銀行の役職員が日々の業務を行うためのオフィスエリアもあります。政策委員会などの重要な会議も本店建物内の会議室で実施されます。また、日銀ネットなどの重要なシステムを開発・運営するためのデータセンターや、日本銀行券の受け渡し拠点となる発券センターもあります。また、全国に所在する日本銀行の 32 支店でも、その営業所の中では、日々、現金の供給や国庫金の取扱い、地域経済の調査など、様々な業務を行っています。

日本銀行がこうした役割を適切に発揮するためには、どのような建物や設備である必要があるでしょうか。地震等の災害に対して頑健であり業務継続が可能であること、業務を支えるインフラとして常に安定的に使用できたり稼動したりしていること、セキュリティが確保されていること、来客やそこで働く役職員にとって過ごしやすい環境が提供されていること――など、枚挙にいとまがありませんが、多様な観点を考慮する必要があります。どのオフィスだって

同じではないか、と思われるかもしれません。もっとも、中央銀行の仕事には、日本銀行券を保管する厳重な金庫を思い浮かべてもらうとイメージし易いと思いますが、現金の供給に加えて、金融政策の運営、金融機関へのモニタリング・調査、日銀ネットの運営など、他の業種にはない中央銀行ならではの独特の機能があります。こうした機能が円滑に発揮できるよう、建物・設備の整備や維持管理に際して過不足なく的確に織り込んでいくこと、これが技師の腕の見せ所となります。

　実際、これまで、日本銀行は、様々な苦難を乗り越えて、業務を安定的に継続してきました。関東大震災、阪神・淡路大震災、東日本大震災といった過去の大災害に際しても、ほぼ業務を止めることはありませんでした。その大前提であったのは、これらの大地震にもかかわらず決して倒壊しなかった、日本銀行の頑丈で堅固な建物や設備です。技師の仕事は、こうした歴史の延長線上にある、極めて意義深いものであると考えています。

　一人でも多くの方が「技師」の仕事に関心を持ち、我々の仲間になりたいと思っていただければ幸いです。